

## 「火の国」熊本 スポーツのビッグイベントに燃える

2016年の熊本地震から丸3年の月日が過ぎた。各種統計などで復旧・復興効果の一段落感が見えてきた県経済への起爆剤として、この夏以降にめじろ押しのスポーツのビッグイベントへの期待は高い。

7月末から約1か月間、南部九州4県で分散開催されるインターハイ(全国高校総体)は、7競技が県内開催。9月20日開幕のラグビーワールドカップ(RWC)では熊本市東区の県民総合運動公園陸上競技場でフランス対トンガ(10月6日)、ウェールズ対ウルグアイ(同13日)の1次リーグ2試合が行われる。2試合とも欧州の強豪に南半球勢が挑む好カードで世界トップレベルの肉弾戦が期待できそう。同競技場の収容能力は約3万人。受け入れ作業に奔走する県担当部局では当然、2試合とも満員の6万人の観客を見込み、そのうち半数近くを県外、国外からの観戦者で埋めたいと皮算用している。また、地震で甚大な被害を受けた熊本城も天守閣部分だけはこの大会に合わせて、外観を復旧させる予定。

また11月30日から12月15日までは熊本市、八代市、山鹿市の3市5会場で女子ハンドボール世界選手権を開催。来年の東京五輪を前にハンドボールの世界女王が決まる。熊本では1997年に男子世界選手権を開催。当時は22万人を集客し、さまざまな国旗をまとった各国の応援団が熊本市の繁華街で盛り上がっていた記憶は県民にも刻み込まれている。今回の集客目標はそれを上回る30万人という。6月21日には組み合わせ抽選があり、7月7日にはチケットの一般販売も始まる。事前の盛り上がり不足が心配されているが、「前回も大会が近まってから雰囲気が変わった」と、県の担当者は短期間に熱く燃える「火の国」気質に期待している。

熊本日日新聞社 業務推進局生活情報部 陣立昌之



ラグビーワールドカップで熊本で1次リーグ1試合を戦う欧州の強豪ウェールズ(赤いユニホーム)



昨年12月にプレ大会として熊本県内であったハンドボール女子アジア選手権で日本代表副主将として活躍した永田しおり。地元オムロンの所属で、本大会でも主軸として期待されている